

領 域	専門分野 (精神看護学)	開講時期	2 年生前期
科 目 名 (单元名)	精神看護学概論	単 位 数 (時間数)	1 単位 (16 時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	①中島由美子 (大分医療センター・看護師長・28 年) ②山田祐子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 27 年)		
<科目目標> こころの機能と発達を理解し、こころの健康保持・増進のための予防医学や精神保健活動を理解する。ライフサイクルにおける発達課題とこころの健康について理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	I. 人間の自我の構造 1. 心の機能と発達 1) 精神と情緒の発達 (1) 自己概念 ①ミード自己論 ②ロジャーズの自己理論 ③エリクソン斬成的発達理論 ④ボディイメージ (2) 自己尊重 ①マズローの人間欲求の段階説 ②ローゼンバーグの自己尊重	講義	②
2	2) 自我の機能 (1) 自我の構造 3) 防衛機制 4) 精神力動 ①精神力動理論 (フロイト) ②対象関係理論 (クライン)	講義	②
3	II. 精神保健の基礎 1. 精神の健康の概念 1) 精神の健康の定義 2) 精神保健における予防概念 2. 精神の健康に関する普及啓発 1) 偏見、差別、スティグマ 2) 精神保健医療福祉の改革ビジョン	講義	②
4	3. 精神の健康とマネジメント 1) 心身相関と健康 (1) ホリスティックケア 2) 職場における精神保健と精神看護 3) 学校における精神保健と精神看護 4) 災害における精神保健と精神看護 (1) 災害時の精神保健医療活動 (2) 災害時の精神保健に関する初期対応 (3) 災害時の精神障害者への治療継続	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
5	5) 身体疾患がある者の精神の健康 (1) 身体疾患と精神疾患 (2) リエゾン精神看護 6) 精神疾患がある者の身体 of 健康	講義	①
6	4. 危機 (クライシス) 1) 危機の概念 2) 危機の予防 3) 危機介入 4) ストレスと対処 5) 適応理論	講義	②
7	5. 保健医療福祉に従事する者の健康 (1) 感情労働	講義	②
8	Ⅲ. 援助的人間関係の構築 1. 援助的人間関係の構築 1) 信頼関係の基礎づくり (1) ケアの方法 2) 患者-看護師関係の発展と終結 (1) ケアの中で起こること 3) プロセスレコードの活用	講義	②
<p>授業の進め方</p> <p>1・2講目では、人格の発達に関する理論を学び、人間のこころの構造と発達、対象との関係により人間が成長していくこと、自己が形成される過程などが理解できるように中範囲理論を活用しながら進める。</p> <p>4講目のこころの危機とストレスについては、看護学概論、成人看護学概論等の既習学習を、8講目のケアにおける人間関係では、基礎看護学で学習した内容を活用しながら進める。</p>			
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院) ①②</p> <p>2. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院) ①②</p> <p>3. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 (学研) 第3版②</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			

領 域	専門分野（精神看護学）	開講時期	2年生前期
科 目 名 (单元名)	精神看護方法論 I (精神疾患・症状・検査・治療の理解)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間のうち 10 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①児玉 健介（別府医療センター・精神科医長） ②二宮 大雅（別府医療センター・精神科医師） ③渡辺 祥平（別府医療センター・精神科医師）		
<科目目標> 精神障害を持つ対象の症状や行動、必要な治療、看護を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	1. 脳の仕組みと精神機能 1) 脳の部位と精神機能 2) 神経伝達物質と精神機能・薬理作用 3) ストレス脆弱性仮説 4) 脳と免疫機能 5) 睡眠障害と概日リズム（サーガディアンリズム）	講義	
2	2. 疾患・症状の理解 1) 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害 症状と治療 2) 気分（感情）障害：双極性障害、抑うつ障害 症状と治療 3) 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害：恐怖性不安障害、強迫性障害、重度ストレス反応および適応障害、解離性障害、身体表現性障害 症状と治療	講義	
3	4) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群：摂食障害、睡眠障害、性同一性障害 症状と治療 5) 習慣および衝動の障害：病的賭博、病的放火、病的窃盗、抜毛癖 症状と治療 6) パーソナリティ障害 症状と治療 7) 症状性を含む器質性精神障害：認知症、症状精神病 症状と治療 8) 精神作用物質使用による精神・行動障害：アルコール依存症、薬物依存 症状と治療	講義	
4	9) 知的障害（精神遅滞）：精神遅滞 症状と治療 10) 心理的発達障害の障害 症状と治療 11) 小児・青年期に発症する行動・情緒の障害 症状と治療 3. 検査の理解 1) 脳波検査 2) 知能検査 3) 記銘力検査 4) 人格検査 5) 脳の画像検査	講義	

回	授業内容	授業方法	担当講師
5	3. 治療の理解 1) 薬物療法 (作用と有害反応) (1) 抗精神病薬 (2) 抗うつ薬 (3) 抗躁薬 (4) 抗不安薬 (5) 睡眠薬 (6) 抗てんかん薬 (7) 抗パーキンソン薬 2) 電気けいれん療法 3) 心理・社会的療法 (1) 個人精神療法 (2) 集団精神療法、集団力動 (3) 心理教育的アプローチ (4) 認知行動療法 (5) 生活技能訓練 (SST)	講義	

授業の進め方

講義では、疾患、症状、検査、治療の理解ができるように進める。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎(医学書院)①②③
2. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開(医学書院)①②③
3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経(医学書院)①

評価方法

筆記試験

領 域	専門分野 (精神看護学)	開講時期	2年生前期
科 目 名 (单元名)	精神看護方法論 I (精神症状への看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間のうち 20 時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	①松山寿幸 (別府医療センター・看護師 24 年) ②平井和明 (からだと心の訪問看護ステーション 代表 看護師・保健師 19 年)		

<科目目標>

精神障害を持つ対象の症状や行動、必要な治療、看護を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法	担当講師
1	1. 精神症状に対する看護 1) 不眠・睡眠障害 (1) 不眠・睡眠障害の要因 (2) 不眠・睡眠障害が日常生活に及ぼす影響 (3) 不眠・睡眠障害への看護	講義	①
2	2) 不安・恐怖 (1) 不安・恐怖の要因 (2) 不安・恐怖が日常生活に及ぼす影響 (3) 不安・恐怖への看護	講義	①
3	3) 幻覚・妄想 (1) 幻覚・妄想の要因 (2) 幻覚・妄想が日常生活に及ぼす影響 (3) 幻覚・妄想への看護	講義	②
4	4) 抑うつ・希死念慮・自殺企図 (1) 抑うつ・希死念慮・自殺企図の要因 (2) 抑うつ・希死念慮・自殺企図が日常生活へ及ぼす影響 (3) 抑うつ・希死念慮・自殺企図への看護	講義	②
5	5) 躁状態 (1) 躁状態の要因 (2) 躁状態が日常生活へ及ぼす影響 (3) 躁状態への看護	講義	②
6	6) 脅迫 (1) 強迫の要因 (2) 強迫が日常生活に及ぼす影響 (3) 強迫への看護	講義	②
7	7) 依存 (1) 依存の要因 (2) 依存が日常生活に及ぼす影響 (3) 依存への看護	講義	②
8	8) せん妄 (1) せん妄の要因 (2) せん妄が日常生活に及ぼす影響 (3) せん妄への看護	講義	②

回	授業内容	授業方法	担当講師
9	9) 興奮・暴力 (1) 興奮・暴力の要因 (2) 興奮・暴力が日常生活に及ぼす影響 (3) 興奮・暴力への看護	講義	②
10	10) 拒食・過食 (1) 拒食・過食の要因 (2) 拒食・過食が日常生活に及ぼす影響 (3) 拒食・過食への看護	講義	②

授業の進め方

症状の看護が理解できるように進める。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎(医学書院)①②
2. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開(医学書院)①②
3. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 改訂版 (中央法規) ①②

評価方法

筆記試験

領域	専門分野（精神看護学）	開講時期	2年生後期
科目名 （单元名）	精神看護方法論Ⅱ （治療が必要な対象の看護）	単位数 （時間数）	1単位 （30時間のうち20時間）
講師 <small>（所属・職位等・実務経験）</small>	①立石 理恵（別府医療センター・看護師・15年） ②吉田 紗奈江（別府医療センター・看護師・11年）		
<科目目標> 精神疾患のある対象の日常を支える看護、退院支援について理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	1. 精神医療、看護に関する基本的考え方 1) 精神保健医療福祉の変遷と看護 (1) 諸外国における精神医療の変遷 (2) 日本における精神医療の変遷 (3) 精神保健医療福祉における看護師の役割	講義	①②
2	2) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）の運用 (1) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）の基本的な考え方 ①患者の権利擁護（アドボカシー） ②当事者の自己決定の尊重 ③入院患者の基本的な処遇 ④行動制限の基準 隔離・拘束 ⑤精神医療審査会 (2) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）による入院形態 (3) 精神保健指定医	講義	①②
3	2. 生きる力と強さに着目した援助 (1) レジリエンス (2) リカバリ（回復） (3) ストレングス（強み、力）(4) エンパワメント	講義	①②
4	3. 経過別の看護の特徴 4. 身体ケアの実際 (1) バイタルサインのモニタリング (2) 検査データのモニタリング	講義	①②
5	5. セルフケアへの援助 (1) 食物・水分摂取 (2) 呼吸 (3) 排泄 (4) 清潔と身だしなみ (5) 活動と休息 (6) 対人関係	講義	①②
6	6. 安全を確保するための援助 ①病棟環境の整備と行動制限 ②自殺、自殺企図、自傷行為 ③行動的行動、暴力、暴力防止プログラム ④無断離院 ⑤災害時の精神科病棟の安全の確保	講義	①②

回	授業内容	授業方法	担当講師
7・8	<p>7. 治療に伴う看護</p> <p>1) 薬物療法</p> <p>①服薬確認</p> <p>②有害反応の観察</p> <p>錐体外路症状、アカシジア、ジストニア、 遅発性ジスキネジア、悪性症候群、肺血栓塞栓症、 多飲と水中毒、リチウム中毒</p> <p>2) 電気けいれん療法時の看護</p> <p>3) 手術療法をうける対象の看護</p> <p>周手術期の治療継続に対する介入</p> <p>①身体症状に鈍い対象の異常の早期 発見、フィジカルアセスメント</p> <p>②必要な治療の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸液療法やチューブ類の管理 ・必要時に実施される行動制限への看護 	講義	①②
9	<p>8. 身体合併症への看護</p> <p>(1) メタボリックシンドローム</p> <p>(2) 糖尿病</p> <p>(3) やせ (るい瘦)</p> <p>(4) 肺炎</p> <p>(5) 窒息</p> <p>(6) 骨折</p> <p>(7) 齲歯</p> <p>(8) 起立性低血圧</p> <p>(9) 肺動脈血栓塞栓症</p> <p>(10) 悪性新生物</p>	講義	①②
10	<p>9. 家族への看護</p> <p>(1) 家族のストレスと健康状態のアセスメント</p> <p>(2) 家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント</p> <p>(3) 家族システムへのアセスメント</p> <p>(4) 家族への教育的介入と支援</p> <p>(5) 患者-家族関係</p>	講義	①②
<p>授業の進め方</p> <p>1 講目では、精神医療の方向性を歴史より確認し、現在の精神医療の在り方が理解できるように進める。2 講目以降は、治療が必要な患者の入院中の看護に焦点をあて学習を進めていく。</p>			
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎(医学書院)①②</p> <p>2. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開(医学書院)①②</p> <p>3. エビデンスに基づく精神科看護ケア 関連図①②</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			

領 域	専門分野（精神看護学）	開講時期	2年生後期																				
科 目 名 （单元名）	精神看護方法論Ⅱ （地域生活に支援が必要な対象の看護）	単 位 数 （時間数）	1 単位 （30 時間のうち 10 時間）																				
講 師 （所属・職位等・実務経験）	①中島由美子（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 28 年）																						
<p><科目目標> 精神疾患のある対象の日常を支える看護、退院支援について理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> <th>担当講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>3. 退院支援時の看護 1) 社会復帰・社会参加への援助 (1) リハビリテーションの概念 (2) 国際生活機能分類（ICF） (3) 長期入院患者の退院支援</td> <td>講義</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2) 精神保健医療福祉に関する社会資源の活用と調整 (1) 精神科デイケア、精神科ナイトケア (2) 精神科訪問看護、訪問看護 (3) 困難事例に関する行政との連携（保健所、市町村、精神保健福祉センター）</td> <td>講義</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3) 社会資源の活用とケアマネジメント (1) 精神疾患・障害者ケアマネジメントの基本的考え方 (2) 社会資源の活用とソーシャルサポート (3) セルフヘルプグループ (4) 自立支援医療 (5) 居宅介護（ホームヘルプ）、同行援護および行動援護 (6) 重度訪問介護 (7) 生活介護 (8) 短期入所（ショートステイ） (9) 共同生活支援（ケアホーム） (10) 生活訓練 (11) 就労移行支援 (12) 就労継続支援（A型・B型） (13) 共同生活援助（グループホーム） (14) 地域生活支援事業 (15) 精神障害者保健福祉手帳</td> <td>講義</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4. 多職種連携と看護の役割 1) 医師、歯科医師 2) 保健師 3) 精神保健福祉士 4) 作業療法士 5) 精神保健福祉相談員</td> <td>講義</td> <td>①</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	担当講師	1	3. 退院支援時の看護 1) 社会復帰・社会参加への援助 (1) リハビリテーションの概念 (2) 国際生活機能分類（ICF） (3) 長期入院患者の退院支援	講義	①	2	2) 精神保健医療福祉に関する社会資源の活用と調整 (1) 精神科デイケア、精神科ナイトケア (2) 精神科訪問看護、訪問看護 (3) 困難事例に関する行政との連携（保健所、市町村、精神保健福祉センター）	講義	①	3	3) 社会資源の活用とケアマネジメント (1) 精神疾患・障害者ケアマネジメントの基本的考え方 (2) 社会資源の活用とソーシャルサポート (3) セルフヘルプグループ (4) 自立支援医療 (5) 居宅介護（ホームヘルプ）、同行援護および行動援護 (6) 重度訪問介護 (7) 生活介護 (8) 短期入所（ショートステイ） (9) 共同生活支援（ケアホーム） (10) 生活訓練 (11) 就労移行支援 (12) 就労継続支援（A型・B型） (13) 共同生活援助（グループホーム） (14) 地域生活支援事業 (15) 精神障害者保健福祉手帳	講義	①	4	4. 多職種連携と看護の役割 1) 医師、歯科医師 2) 保健師 3) 精神保健福祉士 4) 作業療法士 5) 精神保健福祉相談員	講義	①
回	授業内容	授業方法	担当講師																				
1	3. 退院支援時の看護 1) 社会復帰・社会参加への援助 (1) リハビリテーションの概念 (2) 国際生活機能分類（ICF） (3) 長期入院患者の退院支援	講義	①																				
2	2) 精神保健医療福祉に関する社会資源の活用と調整 (1) 精神科デイケア、精神科ナイトケア (2) 精神科訪問看護、訪問看護 (3) 困難事例に関する行政との連携（保健所、市町村、精神保健福祉センター）	講義	①																				
3	3) 社会資源の活用とケアマネジメント (1) 精神疾患・障害者ケアマネジメントの基本的考え方 (2) 社会資源の活用とソーシャルサポート (3) セルフヘルプグループ (4) 自立支援医療 (5) 居宅介護（ホームヘルプ）、同行援護および行動援護 (6) 重度訪問介護 (7) 生活介護 (8) 短期入所（ショートステイ） (9) 共同生活支援（ケアホーム） (10) 生活訓練 (11) 就労移行支援 (12) 就労継続支援（A型・B型） (13) 共同生活援助（グループホーム） (14) 地域生活支援事業 (15) 精神障害者保健福祉手帳	講義	①																				
4	4. 多職種連携と看護の役割 1) 医師、歯科医師 2) 保健師 3) 精神保健福祉士 4) 作業療法士 5) 精神保健福祉相談員	講義	①																				

回	授業内容	授業方法	担当講師
4	6) ピアサポーター 7) 薬剤師 8) 栄養士 9) 臨床心理技術者（臨床心理士、公認心理士等）	講義	①
5	5. 退院支援の実際	ワーク	①

授業の進め方

地域での生活に支援が必要な対象の看護が理解できるように進める。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎(医学書院)
2. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開(医学書院)

評価方法

筆記試験

領 域	専門分野（精神看護学）	開講時期	2年生後期												
科 目 名 （单元名）	精神看護方法論Ⅲ	単 位 数 （時間数）	1 単位（15 時間）												
講 師 <small>（所属・職位等・実務経験）</small>	①山田祐子（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 27 年）														
<p><科目目標> 慢性期、急性期、回復期にある対象に必要な看護展開を理解する。</p> <p><事例> A さん 20代 女性 病弱な母と祖母の3人暮らし Aさんは調理師専門学校へ進学したが、友達とうまくいかず2年生の5月から登校できなくなった。友達の言葉が気になり、夜遅くまで眠れず、朝方になってから入眠し、食事の時も起きられず自分の部屋で過ごす日が続いた。7月に退学し、夜間にコンビニエンスストアに出かける以外、ほとんど家の中で過ごしていた。 7月以降、自分の部屋に閉じこもったまま数か月も風呂に入らず、心配した叔父が部屋に入ると、部屋の中は食べ物の残りや空きのペットボトルなどのごみ、衣服などが散乱し、異臭がしていた。叔父が風呂に入るように強く説得すると、興奮して怒鳴り散らした。数日後、叔父が部屋に入るとうづくまったまま動こうとせず、壁に向かい何かを言っていた。母親が部屋を片付けようとすると大声をだした。その後3日間、Aさんは不眠が続き食事もとれなくなった。心配した母親が叔父に相談し、次の日、母親と叔父に付き添われ、精神科病院を受診した。統合失調症の疑いで医療保護にて入院した。 *上記事例は急性期事例である。慢性期、回復期事例については講義時に追加する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> <th>担当講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2</td> <td> 1. 統合失調症急性期にある対象の看護展開 1) アセスメント (1) 対象に生じている症状のメカニズム (2) 対象の精神症状が日常生活に及ぼす影響のアセスメント (3) 対象の身体機能状態のアセスメント (4) 処方されている薬物の作用と副作用の観察 (5) 対象の気持ちや感情のアセスメント 2) 看護 (1) 安心できる関係や雰囲気を作ることで精神的な安定を図る (2) 幻聴により不眠のある対象が安全に安心して休息できる環境づくり (3) 急性期の服薬管理 </td> <td>講義 GW</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>3～5</td> <td> 1. 統合失調症慢性期の看護展開 1) アセスメント (1) 対象のセルフケア能力 (2) 健康的側面のアセスメント (3) 対象の治療や看護に対する思い </td> <td>講義 GW ロールプレイ</td> <td>①</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	担当講師	1・2	1. 統合失調症急性期にある対象の看護展開 1) アセスメント (1) 対象に生じている症状のメカニズム (2) 対象の精神症状が日常生活に及ぼす影響のアセスメント (3) 対象の身体機能状態のアセスメント (4) 処方されている薬物の作用と副作用の観察 (5) 対象の気持ちや感情のアセスメント 2) 看護 (1) 安心できる関係や雰囲気を作ることで精神的な安定を図る (2) 幻聴により不眠のある対象が安全に安心して休息できる環境づくり (3) 急性期の服薬管理	講義 GW	①	3～5	1. 統合失調症慢性期の看護展開 1) アセスメント (1) 対象のセルフケア能力 (2) 健康的側面のアセスメント (3) 対象の治療や看護に対する思い	講義 GW ロールプレイ	①
回	授業内容	授業方法	担当講師												
1・2	1. 統合失調症急性期にある対象の看護展開 1) アセスメント (1) 対象に生じている症状のメカニズム (2) 対象の精神症状が日常生活に及ぼす影響のアセスメント (3) 対象の身体機能状態のアセスメント (4) 処方されている薬物の作用と副作用の観察 (5) 対象の気持ちや感情のアセスメント 2) 看護 (1) 安心できる関係や雰囲気を作ることで精神的な安定を図る (2) 幻聴により不眠のある対象が安全に安心して休息できる環境づくり (3) 急性期の服薬管理	講義 GW	①												
3～5	1. 統合失調症慢性期の看護展開 1) アセスメント (1) 対象のセルフケア能力 (2) 健康的側面のアセスメント (3) 対象の治療や看護に対する思い	講義 GW ロールプレイ	①												

	<ul style="list-style-type: none"> ①自己をどのように捉えているか ②対象が望んでいる自分の状態、状況 ③対象が望んでいる生活 ④入院、治療内容、看護をどのように捉えているか ⑤対象が望んでいる治療内容や看護 <p>2) 看護</p> <p>3) 自尊感情の低下した対象の服薬自己管理へ向けた援助</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 治療的コミュニケーションを用いた援助的人間関係の構築 (2) 対象の強みに働きかける援助 (服薬管理) 		
6・7	<p>2. 統合失調症回復期の看護展開</p> <p>1) アセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 精神症状の状況 (2) セルフケアの状況 (3) 本人の希望 (4) 周囲のサポート体制 <p>2) 地域生活に向けた調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ①精神障害者手帳の申請、精神通院医療費公費負担制度 ②デイケア、ナイトケア、ショートステイなどの利用 ③就労継続支援、職業訓練の活用 ④障害年金 ⑤障害者の雇用促進 ⑥生活保護 ⑦介護認定 ⑧福祉施設や長期療養型病院の活用 	講義 G. W	①
<p>授業への取り組み方</p> <p>対象の理解のために必要な基礎となる知識の復習を課題とする。開講までに講師の指示に従い実施すること。</p>			
<p>授業の進め方</p> <p>精神看護学概論、精神看護方法論Ⅰ・Ⅱで学習した知識を活用し、事例を用いて、急性期、慢性期、回復期に必要な看護を考えることができるようにする。</p> <p>仮説検証には対象の理解が部分的に偏らないように、全体像を考えながら進めていく。</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 精神看護の基礎(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 精神看護の展開(医学書院) 3. エビデンスに基づく精神科看護ケア 関連図 			
<p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. レポート 			